

## ■ 議題

---

今回の番組審議委員会は、西日本豪雨の影響により、7月4日（水）高山市に災害対策本部が設置されたことに合わせ、通常番組終了後も放送時間を延長して災害放送を継続、また、4日～8日までの災害放送の内、5日（木）夜間には、防災ラジオ利用者に対し、「緊急」の自動起動を多く立ち上げ大音量で放送、さらに、7日（土）13時～の「ヒッツ・サタデー・パワーチャージャー」の番組開始前には、県内に「大雨特別警報」が発令され、土砂災害が発生したこともあり、防災ラジオで「緊急」の自動起動を立ち上げて放送、これらの内容を聴取して審議に入った。

## ■ 審議内容

---

会社側： 審議に入る前に、前回の番組審議委員会での意見に対しての回答、報告、今後の放送予定、聴取した番組の補足などを説明した。

大萱委員長： 委員の意見を伺っていきたいと思うが、番組聴取で緊急放送について審議するのは初めてか？緊急放送を聴いて審議することは、あまり無いと思う。意見でも質問でも結構だ。色々頂きたい。また通常放送に関しての意見でも結構なので順番に聞いていきたい。

高木委員： 非常に丁寧で聴きやすいと感じた。ここで例えばナビゲーターがバタバタとしてしゃべってしまうと、聴いているほうにも不安を煽ってしまうが非常に聴きやすかった。中には繰り返して言っているところもあったがそういった時は「繰り返します」ということを間に入れると、より分かりやすくなると思う。道路の通行止めや避難勧告についての情報などをまとめて放送していたが、まとめて放送することは重要だが、少し長すぎる感じがした。その都度、放送する内容をまとめたとは思いますが、ずっと聴いていると少し長いと感じた。ただ、我々警察（※高木委員は高山警察署員）としても、このような情報を住民に知らせてもらえるのは非常にありがたい。避難勧告・避難指示・特別警報などの情報だけではなく、ちょっとした注意も呼び掛けたほうがよいのであれば、我々も情報を提供して、それを放送してもらえば非常にありがたいと思った。

大萱委員長： 確かに丁寧に放送していたと感じた。

川原委員： 初めの井谷ナビゲーターの放送は、何度も繰り返していたり、何故通行止めなのかという理由も話していて丁寧だなと感じたし、非常に落ち着いていたので、聴いているほうも安心感が持てるような感じだった。し

かし情報量が多過ぎて、色んな地域のことを話していたので、高山市内のことなのか、他の地域のことなのか、行ったり来たりしていた。そのあたりはまとめて、どの地域から言えばよいかを決めたほうが、理解しやすいと思った。

2つ目の田中曜子さんの放送は、防災ラジオのサイレン音から始まったところを初めて聴いたが、物々しい感じが伝わって「気を付けないといけない」という危機感が持てた。本当に重要な警報や、大きな地震などがあった時は、普段と違う音を入れることは大事だと思った。

大萱委員長：確かに広域にわたり郡上市（隣の市）のほうの情報も入っていて、よいことだと思った。ただメリハリがあるとよいのかなと思う。もちろん住んでいる地区（地元）のことが知りたいとは思いますが、やっぱり広域的なことも必要だと思う。その辺り、良い悪いというよりは、メリハリが必要なのかなと思う。

田口委員：最初のところで、私は高山市（地元）出身では無いので、放送で呼びかけても、どこからが通行止めなのか正直、わからない。この情報はどこから来るのか？また「ここからここ」という情報は書面で来て放送しているのか？

会社側：道路情報はメールとファクスで届く。避難勧告等の情報も高山市役所からファクスで一覧が送られてくる。

田口委員：道路を知らない私としては、スマートフォンなどでは通行止めの情報を「ここで確認できますよ」と情報源を知らせてもらうなど、ツールを紹介してもらいたい。また最新の情報を知りたいなら「ここを見て下さい」と言ってもらえば、自分で調べることもできる。現状を報告することも大事だが、追加で知りたい人が「詳しいことはここを見てください」と言ってもらくと、目で見えて確認ができると思うし、文字や絵があると助かると思う。また、ナビゲーターが落ち着いて情報を伝えることがすごく大事だと思った。大雨の時は川の水位も高くなり、川を見に行く人もいると思う。大変危険な状況である時は通行止めや避難勧告の情報だけではなく「絶対に川に近付かないで下さい」ということも一言付け加えて欲しいと思った。

田中ナビゲーターの放送では「大雨特別警報」という言葉を初めて聞いて、それが何なのか分からなかった。「警報の最上級」というのを後からニュースで知ったが、併せて「特別警報がどうゆうものなのか」というのも、伝える余裕があれば伝えてほしい。そうすれば、もう少し危機感を持てるのではないかと思う。

大萱委員長： 「特別警報」は、ほとんどの人が多分、初めての経験だったので、言いたいこともよく分かる。また道路の情報も、自分たちは地元なので今の情報を聴いて「このあたりだな」というのが分かるが、観光客や地元出身者でない方はわからないと思う。緊急時、よりわかりやすくする為には、耳で伝えるだけではなく、目でも見てもらうことが必要になってくると思う。そのあたりはどうなのか？

会社側： 指摘通りだ。なので、一言付け加えることを検討したい。災害はあってはならないことだが、また来るので、そういう部分では今後、付け加えていきたい。本日行政（高山市役所）の方と、道路管理者（国土交通省高山国道工事事務所）の方が出席していれば、その方々と意見交換したいと思ったが、残念ながら今回は欠席しているので、後日伝えたいと思う。

大萱委員長： ぜひお願いしたい。本当に目でも耳でも色々なところから情報が入るとよいと思う。ただ、それが錯綜してしまわないようにということもある。

田中委員： 田口委員と同じ意見になるが、どこが通行止めなのかがわかりづらい。国道や高速道路は、名前から想像がつくが、県道を路線名で言われるとわかりづらい。緊急時、もらった情報をそのまま伝えるので仕方がないと思うが、聴いている方にイメージが付くような言い方があればよいと思った。

それから井谷ナビゲーターが、たまたまこの時の担当だったと思うが、井谷ナビゲーターはベテランなので落ち着いて伝えることができたのだと思う。他のナビゲーターでも同じように冷静に対応ができるのかなと思った。誰でも対応ができないのであれば「防災についての研修」も必要のかなと思った。

大萱委員長： 会社側としての対応はどうなのか？

会社側： 井谷ナビゲーターに「来てもらえないか」ということで、本人に直接頼んだ。そこは当然、田中委員の意見のように、経験が浅いナビゲーターだと恐らく混乱するだろうと考え、色々としゅみレーションもし、今回は、井谷ナビゲーターが良いと判断し依頼した。また、7月6日は遠藤ナビゲーターが夜を担当し、7月7日の夜は、再度井谷ナビゲーターが夜を担当した。今回は共にベテラン勢に放送を依頼した。

大萱委員長： ナビゲーターは放送時間としては時間外労働なのか？

会社側： そうだ。基本的には正社員の宮ノ下ナビゲーターが、時間外を担当する。6月29日の金曜日は、宮ノ下が担当し、8月4日水曜日も宮ノ下が24時まで担当した。宮ノ下ナビゲーター以外のナビゲーターは担当番組のみの契約になるが、雨がしばらく続いたので、宮ノ下ナビゲーターの負担を軽減する為、今回は井谷ナビゲーターと遠藤ナビゲーターに依頼した。現時点では、経験の浅いナビゲーターでは難しいと判断した。今後はナビゲーター全員ができるようにしたいと思う。

大萱委員長： それが一番だとは思いますが、時間外だとナビゲーターが選べるということか？例えば通常の番組中で新人ナビゲーターが担当していた時に災害が発生した場合は、ベテランがいたら代わることもあるのか？

会社側： そうだ。過去に経験の浅いナビゲーターが担当していた番組中に台風が近づいていて、情報を伝えなければならない状況になったことがあり、その時は宮ノ下ナビゲーターがいたので、代わりに情報を伝えたこともあった。最近では通常番組内、大雨などで通行止めなどの情報が来た場合、担当ナビゲーターが担当時間までは情報を伝えるようにしているが、新人ナビゲーターだった場合、ベテランの宮ノ下ナビゲーターに代わるということもある。

大萱委員長： 臨機応変にそこは対応するということがわかった。

原委員： 井谷ナビゲーターはベテランなので、聴きやすくよかった。最初の情報をもう1回伝えていたが、ラジオの場合、地図をイメージしながら聴いているので、復唱してもらおうとわかりやすいと思った。ただ、田口委員の意見のように、今、高山市は合併して範囲が広がっていて、そうなるのと、聞いたことがない道路の路線名を言われてもわからないので、少しでもわかりやすくする為に、「この路線は〇〇方面」など少し付け加えたほうがよいと思う。反対に「付け加えてはまずい」こともあると思うので、シミュレーションをした上で、大丈夫そうなコメントを付け加えたらよいと思う。例えば「江名子川沿いの〇〇町内」と言うだけでもだいぶ違うと思うし、そういうところまで言えばわかりやすいのかなと思った。緊急時の場合は、まずテレビ、私は特にNHKを最初につける。でも地元の情報はヒッツFMを聴いているとわかりやすいので、両方聴いていることがある。画像はテレビを見ながら、地元情報はヒッツFMを聴いている。特にヒッツFMの情報は、地元の情報に特化したことのほうがよいと思うので、そういう意味だと、やはり地域のこともわかりやすく伝えることが大事なのかなと思う。先ほどの意見にもあったが、スマ

ートフォンなど、色々利用できるようなものがあったりすればよいのかなと思う。それと、突然何か情報が入った時には、やはりナビゲーター全員が情報を伝えなくてはいけないので、緊急のマニュアルがあり、基本的に伝えなければいけないこと、それには幾つか項目があると思うが、そのようあ緊急マニュアルはあるのか？

会社側： 地震に関しては、スタジオの中に用意しているが、特に大雨に関してのマニュアルは無い。

原委員： 大雨というよりも災害マニュアルだ。道路情報もそうだが、基本的な、本当にベースになるようなものを、少しでもよいので作成してほしい。それを見ながら情報を伝えるほうが、突然の場合でも落ち着いて情報を伝えられるのかなと思う。やはり、どこから伝えたらよいのかということも把握しなければいけないと思うし、そういうものが普段からあったほうがわかりやすいと思う。

大萱委員長： 地震のマニュアルはあるということ。高山市もあったと思う。今回は大雨で、避難場所が「本当にそこで大丈夫なのか」と、不安に思っている方が結構いた。私は宮川沿いに住んでいるが「これ溢れたら西小学校（指定の避難所）じゃなくて高山駅のほうへ逃げろ」と、家族には言っている。何故かという、高山駅のほうが標高が高いからだ。西小学校だって危ない可能性がある。大雨になる可能性はこれからもまたあるので、マニュアルは必要になってくると思う。また、避難場所は地震と大雨では、多分違ってくると思う。地震のマニュアルで説明していくと、大雨の場合は、川が渡れないということもあるので、避難場所が違ってくると思う。それはまた困る話だ。

原委員： 西小学校の校下は川の東側と川の西側がある。宮川の水位が高くなっているのに、八幡町の方が川を渡って、西小学校まで避難しなくてはいけないのか。わざわざ危険な状態の川を渡って、指定の避難所である西小学校へ行ったほうがよいのか、それは考えないといけないと思う。

大萱委員長： その辺りはヒッツ FM というよりも行政の問題もあると思うので、また色々相談していきたいと思う。ところで通行止めの時、警察車両は出るのか？

高木委員： 土砂崩れは、本当に通行を避けないと危ないので配置している。前も高根町内で土砂崩れがあり、数軒が孤立した所もあって、その時はパトカ

一を配置した。警察がパトカーを止めても復旧はできないが、そこに進入してくる車両などを防ぐことはできる。

大萱委員長： できるだけ具体的に、全ての情報を伝えるにも、先ほどの意見にあったことが必要なのかなと思う。今日は、残念ながら欠席している高山市役所と国土交通省高山国道工事事務所の方に、番組審議委員会でこのような意見が出たことを、是非伝えてほしいと思う。他、通常放送などについて何か意見をお願いしたい。

原委員： 亀山ナビゲーターが最近復帰したと思うが、亀山ナビゲーターの放送を2～3日前に聴いていたら「高速バスの空席情報」などが早口だった。亀山ナビゲーターはもともと早口だが、あまりにも早口過ぎるかなと感じた。「そこまで早口じゃなくてもよいかな」と伝えて欲しい。

大萱委員長： 復帰して少し張り切って、早口になったのかも。

原委員： 早口でも亀山ナビゲーターは滑舌がよいので聴きやすいが、早口過ぎると思った。もう少しゆっくりでもよいと思う。

大萱委員長： 田口委員が今日出席しているが、今度「飛騨高山ブラックブルズ岐阜」（日本ハンドボールリーグ加盟 地元の女子ハンドボールチーム ※田口委員はこのチームの一員）の放送がヒッツ FM で始まるが、これは選手の皆が登場するのか？

会社側： そうだ。15分位のコーナーを考えている。先週、ビッグアリーナ（高山市の練習場・試合会場）にナビゲーターが出向き、監督にインタビューをしたという報告を受けたので、第1回はこの内容が放送される。インタビューなどに加え、ハンドボールのルールなど、「ハンドボールはこういうものですよ」ということを、耳で聴いてもわかりやすく伝えられるよう気をつけ、番組を作っていきたいと考えている。また9月22日に、大垣市でホーム戦があるが、その時にレポートができるよう、現在、話を進めている。ビッグアリーナで試合があればもちろん、当日のレポートも入れたいと考えている。

原委員： コーナーは何時頃から放送するのか？

会社側： 1回目は、土曜日の午前11時半からを予定している。また、別の時間帯で再放送したいとも思っている。このコーナーには「コカ・コーラ」様にスポンサーに就いて頂いた。

大萱委員長： それはよかった。

会社側： 後はブラックブルズに勝ってもらい、盛り上げていきたいと思う。

大萱委員長： 今からシーズン突入のはず。全 14 回で隔週放送ということは、いつまでの放送になるのか？

会社側： 来年の 3 月までだ。

大萱委員長： 他の意見はないか？

原委員： 現在、陸上のアジア大会が行われている。以前、市民時報（高山市を中心とした飛騨地域に密着した新聞）に高山出身なのかわからないが「堀さん」という名前が出ていたが…。

会社側： 市民時報に載っていたのは、パナソニックに勤めている方だと思う。

原委員： そうだ。そうだ。7 位か 6 位に入賞したと思う。

田口委員： 1 万メートルで入賞した方。

原委員： そうだ。例えばそういった地元の方を電話でもよいのでインタビューすることができないのかなと思った。コメントを少し頂くだけでもいいと思う。収録は、後日でもよいし、事前でもよいと思う。そういうことも一つのネタだと思う。

大萱委員長： 全中（全国中学校体育大会）などインターハイでも、活躍した子ども達が多分いると思うので、全部は無理かもしれないが、地元の子も達が頑張っている姿を聴ければよいかなと思う。今のアジア大会も大きい大会だし聴けるとよいと思う。

原委員： 根尾君（※高校野球 甲子園で活躍した大阪桐蔭の選手 根尾選手は隣の飛騨市出身）も出演してもらえるとよいと思う。

大萱委員長： 根尾君もいいと思う。

原委員： でも、根尾君は無理かもしれない。

大萱委員長： プロになるとなかなか出演は難しいかもしれない。今、U18に出場するはず。

会社側： 根尾君があれだけ騒がれているのは当然だと思う。また活躍といえば、今回「トランス ジャパンアルプスレース」（日本海からスタートし、北アルプス、中央アルプス、南アルプスを抜け、太平洋まで1週間で走破する2年に1度の日本縦断レース）で垣内康介（かいとう・こうすけ ※高山市国府町の住民）さんが優勝したので、後日、インタビューして放送した。こちらも、とにかくすごいことだと思う。レースがマイナーなのでなかなか日の目を見ないが、全国で30名しか出られないレースの中で優勝したのだから「そういう方も取り上げたいな」という思いもあり取り上げた。

原委員： 何年か前にNHKで特集していたと思う。

会社側： 今回のレースの様子は、10月頃にNHKで放送されるみたいだ。

大萱委員長： マイナーな競技でも、そこで頑張っている地元の方もたくさんいると思うので、是非、いろいろ取り上げて欲しいと思う。

会社側： ブラックブルズに関しても、やはり地元のチームなので盛り上げていきたいと思う。もちろん、今シーズンのみ取り上げるのではなく、来シーズンも引き続き取り上げていきたい考えだ。

大萱委員長： 継続していかないと、力になっていかないので、是非、続けて取り上げて頂きたい。

会社側： 先日、ブラックブルズの「壮行会」があり参加したが、そこでも「ビッグアリーナ（試合会場）を満員にしよう」という話があった。ラジオを通じてリスナーに「応援行きましょう」と呼びかけるなど、コーナー以外でも取り上げたい考えだ。

大萱委員長： 是非お願いしたい。

会社側： もう1点報告がある。先程の災害放送に関しての意見について、今回の災害が終わった後に、岐阜県の広報からアンケートが来たので、今回意見にあったような内容について投げかけた。例えば、路線名の「県道〇号線」だけを言っても分かりにくいので、路線名プラス通称名を言った方がわかりやすいと思う。このあたりだと通称「せせらぎ街道」と言っ



たほうが分かりやすいと思うし、隣の飛騨市では通称「神原峠（かんばらとうげ）」と言ったほうが分かりやすいと思うので、地元の方がわかりやすい通称名も一緒に放送できないかと回答した。しかし、それに対して県からは未だに返事が来ていない。

大萱委員長： 基本的に路線名のみ情報しか紹介できないのか？

会社側： 基本的にはそうだ。通行止めの情報は、路線名と区間、通行止めの開始時間が書かれているだけだ。

原委員： 工事などの一方通行の情報もそれだけだった。

大萱委員長： 確かにそうだ。

原委員： だからピンと来ない。

大萱委員長： 勝手に「せせらぎ街道」などの通称名をプラスして紹介ができないのか？

会社側： そこは何ともわからない。

原委員： たぶん難しいのではないかと思う。

会社側： そういったことを確認するため、道路管理者と協議をする場を設けて欲しいということもアンケートに記入した。

大萱委員長： 我々リスナーの思いを予想していて、先に必要な対応をとっていたということが分かった。早く結論を出すのは難しいと思うが、少しでも改善できたらよいと思う。

会社側： 本日は貴重な意見を頂き感謝している。ますます番組に反映したいと思う。

■審議機関の答申又は、意見の概要を公表した場合における公表内容、方法年月日

---

平成30年8月28日 番組審議委員会の席上で説明

■その他の参考事項

---

次回開催日 平成30年10月30日

開催場所 飛騨地域地場産業振興センター